**令和5年度　総社市つどいの広場事業（山手会場）業務委託　事業報告**

１．子育て親子の交流と場の提供と交流の促進

　　山手保健センターつどいのひろば

　　スタッフの人数

保育士４名　保健師２名　助産師２名　社会福祉士１名　小学校教諭１名

①つどいの広場　ちびっこひろばの開催

開設日数　月曜日～金曜日の週５日　開設時間　９:３０～１６：００

年間開所日数　　２１４　日　　月平均　２０．２　日

年間登録組数　　４６２　組　　年間登録者数（実）　６２５　名（２月末時点）

年間利用者数（延べ）　６，２９０　名

年間利用組数（延べ）　５，１５７　組（午前２，７０３ 組　午後２，４５４ 組）（２月末時点）

２．子育てに関する相談、援助の実施

保健師相談日　　１年　１２２　日　　　　　　　　助産師相談日　　１年　５０　日

にこにこ訪問　（年　３　件　　）　スマイル訪問　（年　２　件　延７　回　）

託児支援　　　（年４５　組　６９　人）

３．子育て及び子育て支援に関する講習会の実施

①赤ちゃんタイムの開催　（毎月第４木曜日）　年間参加組数　　１２８　組(１２回分)

②プレママタイムの開催　（毎月第２火曜日）　年間参加組数　　５７　組(１２回分)

③親子体操　　　　　　　（年　４回）　　　　年間参加組数　　４２　組(年４回)

④性教育講座　　　　　　（年　４回）　　　　年間参加組数　　４５　組(４ 回分)

⑤ママ先生による講習会　（年　８回　延　９９　名）　エンパワメント事業

⑥食育プログラム　　　　（年　１５回　延１４１　名）　毎月ポスターの掲示

⑦親育ち講座

・赤ちゃんサロン　　　　　（年　１回　延８　名）・子育て座談会　（年　８回　延６８　名）

・親育ち応援学習プログラム（年　１回　延１８　名）・子育て講習会　（年　５回　延６１　名）

・ノ―バディーイズﾊﾟｰﾌｪｸﾄプログラム（ＮＰ）（全６回　６組　延べ３２名　　）

・プレ幼稚園（全６回　延べ４７名）

⑧市との連携

　　・市栄養士による栄養指導内容についての助言指導（随時）講座（１回）食育会議（２回）

　　・市の保健師に気になる子について相談（随時）カンガルー広場（月１回）つどいらっこオープン（２回）

　　・チュッピーこどもまつり　　　・幼稚園・保育園説明会（１回）

４．地域子育て力を高める取り組み

①外あそびの日の開催　（毎月２－３回不定期）　年間参加組数　３２３　組

（地域の主要公園への出張ひろば）

②愛育委員会との連携　（赤ちゃんタイムにて）

③栄養委員会との協働　（年　２回）

④山手支援センターとの協働（年　３回）

⑤親子クラブとの連携　　運営のための相談（たんぽぽ・キリン・ライオン・わかば）

行事の協働（たんぽぽクラブ年　２回）入会用紙の設置

⑥お話ボランティア　　（年　１２回）　年間参加組数　　延　１１１組(スタッフと利用者さん)

⑦地域施設との協働　　・歯科衛生士（山手グリーン歯科）さんによる歯のお話（１回）

・お魚屋さん（平商店）がやってくる

・地域づくり協議会（健康福祉フェア）出張ひろばとして参加

⑧祖父母利用者数　　　（延１０２　名）

５．特別支援対応加算事業

　　すくすくほっと相談　（毎週月・木曜日）　年間開催日数　　９３　日　　相談件数　　　３１２　件

　　ＰＥＣ　　　　　　　（毎月第１木曜日）　５月～３月　　　１０　回　　参加組数　　延　６０　組

　　発達支援研修　　　　（年　１　回　広場研修）　プチペアトレ（全３回　延べ９名）

　　　親子教室研修会　　親子教室見学（津山　３名）　総社PEC見学受け入れ（新見　玉野）

６．利用者のエンパワメント

・読み聞かせ

・広場内図書（雪舟文庫）のママボラ管理

・ママ先生による講習会

コサージュ、絵本の読み聞かせ、ママコンサート、手作りおもちゃ、工作　ダンス等

７．子育て支援団体等との連携・協働事業

・なかよし広場こっこ・ぴよこっこ・チュッピーひろばとの連携

・県大子育てカレッジ実行委員会参加　　・岡山子育てネットワーク

・おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク　　・ＮＰＯ法人子育てひろば全国連絡協議会

・愛育委員会　　・栄養委員会　　・山手福祉センター　　・山手ふれあいセンター

・地域子育てボランティア育成(ちびボラの育成)

・山手健康福祉フェアー参加　出張ひろば

８．研修会への積極的な参加　（年　４１　講座　延１０４　名参加）

・子育てひろば全国連絡協議会　全国大会（　３　名）

・子育てひろば全国連絡協議会　初任者研修会（オンライン）　（　１名　）

・なかまほいく（オンライン）（２名）・ペアトレ（２名）

**【よかったこと】**

・今年度も新型コロナウイルス感染に伴い、人数制限や企画制限はあったが、感染防止対策を行ないながら、広場を閉鎖することなく開催できたことは、総社市役所保健師さんの支援と、利用者の方の「広場を開けてほしい」という強い思いがあってこそと、感謝している。感染の波がくる度に「開けてくれてありがとう」の一言に励まされながら、広場の感染対策を行ない、クラスターを起こさないように、利用者の方が安心して過ごせる、何気ない日常を守っていきたいと強く感じた１年だった。

・昨年から始まったＰＥＣでは、相談支援専門員の方にも参加をいただき、普段の広場で専門的な相談が受けられるような支援もできた。すくすく相談日では、同じスタッフを配置することで、何度も説明をしなくてもわかってもらえるという安心感も作ることができた。

・カンガルー広場では、市保健師との協働で親子の育ちの見守りが広場内で実施でき、親子の育ちを細やかに応援できる体制も整ってきた。

・今年度からは多胎支援や託児支援も開始し、新しい広場の支援の形も模索できたように感じている。

・広場の果たす役割は大きく、多岐にわたっているが、その一つ一つを丁寧にかかわり、支援を実践できたように感じている。地域、保護者同士、子ども同士が、現実の世界で、声をかわし、声を聴き、自然の営みを肌で感じ、笑顔で過ごしていける、お互い様の精神のもと、誰もが子育て支援に携わっていけるよう、心がけていきたい。

**【改善点と今後の課題】**

・新型コロナウイルス感染が始まって以来、脱メディアを言い続けた広場が、皮肉にもメディアの力を借りて、子育て支援を発信するなど、新しい子育て支援の在り方を模索する必要に迫られた。特に感染防止対策の一環として、ランチルームの閉鎖が余技なくされ、実際の食事風景など見ることもなく、メディアに頼る現状は今でも続いている。そして、『その子』を見る力は急速に衰えを見せているように感じている。誰からも教わらない、育児を見よう見まねで頑張ってきた社会が崩壊し、現実を見ることなく閉ざされた、メディア社会でのみ情報を得る、その中で、保護者達は、感染のリスクと闘いながら育児を行なっていくことを強いられている。保護者達の喘ぎを肌で感じながら、それでもメディアの力を借りつつも、どうやってこの時代に抗っていけばいいのかを常に考えながら、活きた情報の発信源として、保護者の困り感を支えながら、広報のあり方や卒業していったママたちの活躍の場をともに考え、伴奏型支援と循環型支援、そしてお互い様の精神のもと、ともに生きる社会を目指し活動していきたい。